

○2番（染谷直人君） 皆様、こんにちは。議席2番、染谷直人でございます。傍聴の皆様も、議会活動に関心をお寄せいただきまして、誠にありがとうございます。

橋本町長におかれましては、日々、町政発展のため、ご尽力いただいておりますことを心から敬意を表するところでございます。

また、先日、ハワイ州ホノルル市に私どもも行ってまいりましたけれども、町長自らが先頭に立って子供たちの未来につながる国際交流を推し進める姿を間近で目の当たりにしまして、議会、議員としても海外訪問の意味を改めて考えさせられ、目的を持った活動をしなければならないという思いから、現地の議員ともSNS等を通じて今でも交流を続けているところでございます。

それでは、ただいまより通告に従いまして、町政に対する一般質問をさせていただきます。2項目3点についてお伺いをしたいと存じます。これまで全員協議会や昨日の町政報告にてご説明いただいた部分もあろうかと思いますが、改めてご教示を賜ればと存じます。

1項目めの文化・スポーツ大会等参加助成事業についてでございます。先日、フランス共和国モンペリエ市で行われたF I S Eのワールドシリーズでは、境町から参加された地域おこし協力隊の安床選手が世界4位、そのほか境町に移住された中学生や高校生が優勝や入賞する等、大変すばらしい活躍をされました。町民としても誇らしく、またこういった明るい話題が町内で出ることは、町民のシビックプライド、郷土愛の向上にも資しているものと思いますし、子供たちにとっても同級生や同世代が頑張っているというのは非常に励みになって、分野は違えども、私たちもやってみようというチャレンジ精神を育てる一助にもなるのではないかと考えます。

また、私も現地を視察する中で、選手の親御さんたちと懇談する機会を得まして、境町の移住施策のすばらしさについてお聞きしたほか、やはり世界を舞台に戦うとなると金銭的なやりくりも大変になってくる旨のお話を伺ったところでございます。もちろんスポンサーがつくようなトップ選手もおりますけれども、そうでない選手も多くいるのが現状でございます。

そこでお聞きしたいと思います。本助成事業につきまして、助成額を拡充してもよいのではないかと考えますが、町の考えを伺いたいと存じます。

続いて、2項目めの移住定住促進を中心とした人口増加策のこれまでの取組と効果についてであります。こちらは町政報告の中でも丁寧にご説明があり、重複する部分があり、大変恐縮ではございますけれども、新聞、雑誌のみならず、最近ではテレビでも境町のこの施策について目にするようになりました。住宅整備は、平成29年度、2017年から開始したものと思いますが、この人口減少時代に境町は人口の社会増に転じる、いい意味での奇跡といえますか、世の中のニーズにマッチした施策を町長が考案され、実行しているものと認識をしております。当初の集合住宅形式から、25年住み続けられらえる戸建てタイプの整備等、画期的なアイデアの下、施策が進められているものと思っています。この際、これまでの効果と実績、とりわけ直近整備をしましたマハロタウンについてお伺いをしたいと存じます。

1点目が、これまでの取組と効果について、2点目が、3月に竣工したマハロタウンについての応募状況や同様の施設の今後のニーズについて、町の考えを伺いたいと存じます。

以上、2項目3点の1項目めの質問とさせていただきます。執行部の誠意あるご答弁をお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） 最初に、文化・スポーツ大会等参加助成事業についての質問に対する答弁を求めます。
教育次長。

〔教育次長 栗原恵子君登壇〕

○教育次長（栗原恵子君） 皆様、改めましてこんにちは。染谷議員の1項目め、文化・スポーツ大会等参加助成事業についての1点目、最近、BMXやインラインスケート等の世界大会で町内在住の選手が活躍し、町民のシビックプライドの向上にも資していると考えられ、さらなる奨励や負担の軽減を企図し、助成額を拡充してもよいのではないかと考えるが、町の考えを伺いたいとの質問についてお答えいたします。

まず、県内の状況についてでございますが、県内で全国大会や世界大会等出場の助成及び補助の規定があり、助成している市町村については、44市町村中、当町を含め43市町村が助成をしており、県西地区では10市町村中、9市町が助成をしているところでございます。

次に、当町の助成金の実績でございますが、助成金の対象といたしましては、全国大会以上の大会に出場する際に助成を行っております。大会の種類といたしましては、JOC、ジュニアオリンピックカップ、国民体育大会、日本選手権大会等の全国大会、またオリンピック、パラリンピック、世界選手権大会等の国際大会の出場者を対象としております。例えば全国大会出場における助成金の額といたしましては、個人の場合、5万円を限度、団体の場合、15万円を上限とし、助成しております。また、国際大会に出場する場合には、その都度協議し、助成額を決定しております。

令和5年度の助成の状況といたしましては、全国大会出場者35件、1団体34人に対し、1人当たり1万円から5万円の助成を行い、合計91万円の支援を行いました。

次に、助成額の拡充の検討についてでございますが、当町では移住定住やスポーツを核としたまちづくり等の施策を推進し、オリンピックのレガシーとしてのアーバンスポーツパーク等の国内に数少ない国際基準の施設が充実していることから、近年、全国、世界レベルの選手が境町に移住しております。また、その他のスポーツでも全国大会に出場し、活躍する選手が数多くおり、当町といたしましてもスポーツの振興と選手としての活躍をサポートできればと助成をしているところであります。また、将来の境町在住のスポーツ選手が世界で輝けるよう、地域おこし協力隊として指導者を招聘したり、地元住民にも関心を持っていただき、選手を応援していけるよう、選手の育成にも力を注いでいるところでございます。今後、例えば国際大会に関しましては、地域スポーツ振興財団に町から一定の額を預け、選手から財団に申請していただき助成していくシステムなども検討していきたいと思いますので、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。
染谷直人君。

○2番（染谷直人君） ご丁寧なご答弁ありがとうございます。町在住の選手がご活躍をされるとか、また移住につながっているというのは皆さんご存じのとおりだと思いますし、大変喜ばしいことなのかなというふうに思います。

この質問を考えたときに調べた事例として、大阪府泉南市でオリンピックに出たら100万円を年間2回まで出すということを規定されておりましたので、この質問を考えたわけでありますけれども、先ほど教育次長の答弁で財団の活用ですとか、そういった全国ではないような事例のご答弁をいただきましたので、そういったことをぜひ進めていただければなというふうに思います。

せっかくの機会ですので、1点お聞きしたいのですが、もちろんお金のことも大切なのですが、町民が一緒に選手を応援していったりですとか、選手がそれを受けてさらに頑張りたいみたいな、そういった施策、榮譽賞的なものなのか、それともファンミーティングとか応援する会なのか、そういった取組も何かできないかなというふうに思ったのですが、そういった応援サポートみたいなのところについて町のお考えをぜひお聞かせいただければと思います。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、染谷議員さんのご質問にお答えします。

今までも既にホッケーの永井選手や、さらにはBMX、インラインスケートの国際基準の勉強会とか、この町政報告を見ていただいて、書いてございますので、今までやったものについては14ページの中に、5月26日に開催されたとか、5月5日に開催されたとか書いてございますので、今までは順次こうやっていますと。基本的に子供たちからもオリンピック選手に触れられてよかったというような話がありますけれども、まだ町民全体としてやっていない。さらには、今スポーツ協会と運動会どうするのだという話もして、今年はやらないで来年どういうふうにするかという話であるのですけれども、そういう際にオリンピック選手、さらには世界で活躍する選手も来ていただいたりして触れ合うことは可能ではないかと思っております。また、今後開催される、例えば6月30日に大井町 で最後の日本代表のホッケーの試合があつたりしますので、そういったところに、前も行っていたかもしれませんが、町民の皆さん、もしくは子供たち連れて応援に参加するということも可能ですし、BMXについては来年度以降開催される大会など、そういった際に町民の皆さん、さらにはこけら落としの際には小学校1年生と6年生を呼んで子供たちにゴールドメダリストのローガン・マーティンの技を見てもらいましたけれども、そういった際にも今後は町民の皆さんに声をかけ、子供たちに声をかけて本物を見てもらおうと、そういったことはできるのではないかというふうに思っております。

あとは、先ほど染谷議員さんが言われたオリンピックの際の例えば応援ですよね。その同時刻どこかでパブリックビューイングみたいなものをやるかどうかとか、例えば永井選手がパリ五輪の日本代表に決まったということで昨日報告がありましたので、今ちょうどスペインで試合やっていますけれども、決まったということで、境町に在住の方がオリンピックになるということもございますので、そういったことの周知徹底も含めてしっかりとやっていければなというふうに思っております。

また、先ほどの助成については、福岡県が、ちょうどモンペリエの松本翔海君というその年の日本1位がいますけれども、その子に対して、世界で4,000ぐらいやって、なおかつ日本で5,000ぐらい1年間に戦うということで、やはりその移動費とかそういったものを持っているという話を聞いておりますので、境町の子も行けないのではなくて年に数回は、そこまでフルではなくても参加ができるような、指導者も含め、そういう助成を検討してまいり

たいというふうには考えております。

それともう一つ、先ほどオリンピックに出場した場合というのは僕も考えておりませんでしたので、これは議会の皆さんと相談して、オリンピックに出た場合の助成、これをどうするかというのは、もう1人出てしまうのですけれども、次のロサンゼルスにするかとか今回からにするかは議員の皆さんと相談しながら決めていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

染谷直人君。

○2番（染谷直人君） ありがとうございます。1回目の答弁が大変すばらしかったものですから、関連でひねり出したことについても丁寧に答弁いただきましてありがとうございます。先ほどの年に数回の助成ですとか、オリンピックについても前向きに検討いただければというところで要望して、こちらの質問を終わりにします。

○議長（倉持 功君） これで文化・スポーツ大会等参加助成事業についての質問を終わります。

次に、移住定住促進を中心とした人口増加策のこれまでの取組と効果についての質問に対する答弁を求めます。
企画部長。

〔企画部長 佐野直也君登壇〕

○企画部長（佐野直也君） 改めまして、おはようございます。それでは、染谷議員の2項目め、移住定住促進を中心とした人口増加策のこれまでの取組と効果についての1点目、これまでの取組と効果について、町の考えを伺いたいとのご質問にお答えをいたします。

まず、1としまして、これまでの取組についてご説明をさせていただきます。当町では、子育て支援日本一を掲げまして、人口増加政策としまして、働くところの確保、住むところの確保、質の高い教育の3本柱に加えて、独自の各種子育て政策を行ってきたところでございます。具体的には、企業誘致やIC周辺開発及びまちづくり公社の事業拡大などによる雇用の確保、民間アパートに移住する子育て世帯に対する家賃の助成や、雇用促進住宅を買取り、リノベーションしたサンコーポラス長田の整備などの住宅政策、そして全国初となる先進英語教育スーパーグローバルスクールの導入、20歳までの医療費無料化や給食費の補助など、子育てサポートや移住奨励金など、各種補助金等の支援策を行ってきたところでございます。

2の効果としまして、平成25年度までは人口減少が加速し、社会増減においても減少が続いておりましたが、橋本町長就任以降、移住定住促進を中心とした人口増加策が効果となって人口動態に表れ、平成26年度からの10年間で8年間は社会増となっており、政策の効果は出ていると実感しているところでございます。

次に、2点目、3月に竣工したマハロタウンについての応募状況や同様の施設の今後のニーズについて、町の考えを伺いたいとのご質問にお答えをいたします。まず、1としまして、応募状況についてご説明させていただきます。令和4年度に西泉田地区に整備し、大変反響いただきましたオハナタウンに引き続き、昨年度整備しましたアイレットハウスマハロタウン、住吉町は、戸建て住宅22棟の整備を進めておりましたところ、入居募集において全国各地、北は山形県から南は沖縄県、さらには海外はベトナムからも、合わせて230件もの入居申込みをいただいたため、急遽議会の皆様ともご相談させていただき、上町地内のヤオゲン駐車場跡地を活用して5棟追加し、整備を

行ったものでございます。入居者につきましては、入居者選考委員会を開催し、居住地や所得、入居人数などを考慮しながら選考させていただきました。マハロタウンには101名、県内から10名、県外から91名の子育て世帯が転入しており、第1期のPFI住宅整備から累計転入者数は350名を超えており、境町へ移住を希望する全国各地の子育て世帯の受入れに大きく寄与しており、その結果として令和5年度の社会増減は158名の増加ということになっております。マハロタウンへ入居された方には都内や東京圏からの移住者が多く、高速バスによる都心へのアクセス向上やテレワークを契機として移住された方のほかに、先進英語教育やホノルルへのホームステイにより子供の可能性を引き出せるところに魅力を感じた方、子育て支援日本一を掲げ、着実に便利で快適に暮らせるまちづくりを実現している境町に住み続けたいと考えた方が多くいらっしゃいました。

入居された方のエピソードを一部ご紹介させていただきますと、沖縄県から移住されたご家族は、サッカー選手を目指している息子さんが、サッカー日本代表の久保建英選手も選ばれたスペインの名門サッカーチームであるFCバルセロナが主催するバルサキャンプのMVPに選ばれ、関東への移住先を探していたところ、境町が目にとまったということで、移住前はインターナショナルスクールに在籍していたため、移住先でも英語環境を継続していきたいと思っていたところ、自分たちに境町がぴったりだったということでございました。

また、神奈川県から移住されたご家族は、息子さんがBMXフリースタイルの競技を行っており、境町アーバンスポーツパークに来たときに、ここで毎日練習したいという一言から移住を考えるようになったそうでございます。マハロタウンに移住し、アーバンスポーツパークで毎日練習を行ったことから、今年4月に愛知県名古屋市で開催された国内公式戦、マイナビジャパンカップにてクラス別で1位の成績を収めることができたとのことでございます。

2としまして、今後のニーズについてご説明させていただきます。近年では、テレビでも当町が注目され、昨年末に特番で放送された日本テレビ「妄想移住ランキング」において、来年移住すべきまちとして全国9位に選ばれて、先月放送されたフジテレビ「ホンマでっか!?TV」におきましても、今住むなら茨城県境町がお勧めと紹介されるなど、子育ていいとこ境町が広まっており、子育て世帯を中心に、移住希望者が年々増加してきていると実感しております。住宅整備をはじめとした町独自の子育てサポートを積極的に行うことで、町民の皆様はもちろん、全国各地に住む子育て世帯や新婚世帯から大変ご支持をいただいていることを実感しているところでございます。

平成29年度より整備を開始し、これまで建設したマンションタイプのアイレットハウスモクセイ館、山神町35戸です。それと、カンナ館、旭町20戸、さくら館、宮本町27戸、ひまわり館、長井戸26戸の全108戸につきましても、入居開始以来常に満室で入居待ちが続いており、問合せも多数いただいている状況でございます。しかし、コロナ禍を経まして戸建て需要の高まりを受け、戸建て住宅タイプの反響はかかなり大きいため、マンションタイプと戸建て住宅のバランスを考えながら今後は整備をしていきたいというふうに考えております。

また、新たな需要としまして、民間企業の外国人技能実習生の誘致なども検討していければと考えております。

今後も議会の皆様にご相談をさせていただきながら、順次子育て住宅の整備を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

染谷直人君。

○2番（染谷直人君） ご答弁ありがとうございました。町政報告ですとか本日の答弁を聞けば、しっかり実績や効果が出てきているというのは本当に実感できるものだと思っております。

また、移住者が増えるということは、生産年齢人口や未来の生産年齢人口増加にも寄与するということですから、既に住み続けている方々にもよいことがあるものだと理解をしております。

そこで、昨日の町政報告の中で気になったといいますか、町長の話の中で、町民の方からこんなに建てて入居するのみたいな、そういった質問が投げかけられたというふうな話があったかと思いますが、この点について、すばらしいことですから、私はもっと町民の理解が進んでいけばいいのではないかなというふうに思っているのですが、どうやって町民の理解増進につなげていくのか、ぜひ知っていただきたいと思いますので、この点周知等の観点で町のお考えをぜひお聞きできればと思います。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、染谷議員さんのご質問にお答えします。

町政報告でも書かせていただきましたけれども、基本的に、やはり今人口が減っていて、それであんなに建ててしまって大丈夫なのかというふうに普通に思うのだと思うのですよね。なので、やはりこれだけ多くの応募があるということも知らせていかなければならないでしょうし、まさかこんなに境町に人が来るとは誰も思っていないのだと思うのですよね。だからこれだけ今選ばれるようになってきた。さらには、ちょうど皆さんのお手元にこちら配付をさせていただきましたけれども、令和6年度はプラス61なのですよね。この間言ったときは70人と言いましたから、あれから9人亡くなったり転居したりして減っているわけですが、でも今までにこんなプラスになることなんてないのですよね。なので、基本的にはこういったものが継続をされてくると分かってくる。さらには、ちょうど見てもらっても分かるとおり、ずっと減っているわけです。年間400人境町では亡くなります。生まれてくるのが130人。ですから270人減るわけですよね。270という数字が基本です。これは何もしなくても270人減ってしまうわけです。そこに移住をしてきてもらう人が、今までは外に出ていってしまう人が多かったですから、もっと減るわけですよね。なので、例えば近隣で言うとなんか400人減ったりするわけですよね。最近では技能実習生入れているので、増えているというか下げ止まっていますけれども。なので、やっぱりこういうところをきっちりやっていく。さらには、去年の年末ぐらいからテレビの報道がたくさん出ていますので、今度やる住宅はもっと応募が来るのではないかとということと、皆さんにお配りしたPFI住宅事業、これよくテレビなんかでは、町政報告でも言いましたが、ふるさと納税が多いから、ふるさと納税でつくっているのだと思われがちなのですよね。そうではなくて、これ社会資本整備総合交付金という国の補助金を活用しているのと、残りのお金は民間がお金を出しているのです。境町の会社が、民間が、例えば篠原工務店さんといろんな電気屋さんとかがチームを組んで、そこが銀行から借りてこの事業をしているのです。家賃で返していくと。実際に5億円かかれば2億5,000万円は国から入ってしまうわけですよね。2億5,000万円を家賃で返していけばいいという仕組みなのです。なので、25年たてばくれてしまうと思われると思うのですけれども、実は住民税が町にはプラスで入ってきて、例えば2,000

万円で家建てます、1,000万円国から来たとします。1,000万円を25年で返すのには幾ら払えばいいでしょう。年間幾らでしょう。25年、1,000万円。年間40万円。ですから、例えば5万8,000円掛ける12か月だと、6万円だとして70万円ぐらい入ってくるわけです。40万円がいいところを70万円入ってきているわけです。実はこれ町がもうかる仕組みになっているわけです。さらには、ウィン・ウィンですよ。家をもらうほうも土地ももらえるし、さらには住民税も入ってくる。人口も増える。なので、そういうスキームをつくって、実は境町はやっております。今度、五霞町、八千代町、つくばみらい市が同じような仕組みで境町を見に来て建てる予定になっておりますけれども、実際に今までは、これ見ていただいて分かるのとおり、皆さんの後ろのとおり、今まで何と守谷市とかつくば市の方が住宅を売って境町へ引っ越してきているのです。こんなことあり得ないですよ。境町の住宅を売る、もしくは売れなくてもつくばへ引っ越すとか、守谷へ引っ越す、それはありますよね。古河とか春日部に引っ越す。今は境町に引っ越されるという現象が起きております。今まで実際に近くの方は合格できなかったのです。今までは年間の所得と距離で合格にしていたのです。今回22件に対して230件ものお申込みがあったものですから選定委員会というのをつくらせていただきました。もちろん僕入っていないです。民間の方に入っていて選定委員会つくっていただいて、そこで選んでいただいています。その結果、今実際に、本当は遠さで言ったら古河の方も受からない、坂東の方も受からないのですけれども、今回は古河の方が3件ぐらい入ったのかな。なので、そういった形で、今までは距離と年収でやっていたものですから一番近くても久喜市とか、それから守谷市ぐらいだったのですけれども、今回は古河市の方も合格をしております。そういった方が次回やった際に、境町いいよと。1回目のアイレットハウスのモクセイ館、一番初めのときに建てて、2回目は応募をかける前に満室になったのです。何でかという、友達にみんな声かけたというのです。あれがいいからと言って。かく言う八千代町の野村町長の娘さんも実は境町に入っていたり、今度造ると言っていましたけれども、非常に近隣から、お医者さん夫妻が実は泉田に造った戸建てに入っていたり、非常に多くの、今までだったら久喜に住む、今までだったら春日部に住んでしまう、小山に住んでしまうとしていた人たちが境町に住めるようになってきたということがあるのかな。今後は、やはり境町の人、境町に住んでいて、息子たちがいる、娘たちがいるのだけれども、あれ入れないのかという声もたくさん聞くのですよね。議会の皆さんと相談して、町の人も5件ぐらいとか3件ぐらいは入れたらいいのではないかな。やっぱり外に建てられるよりは境町に住んでもらったほうがいいのではないかな、応援できるのではないかなということを議会の皆さんとも相談しながら次回のときにはやっていければなというふうに思っています。昨日ちょっと計画見せてもらったら、今の住吉町の隣、宮本町、あそこで大体今確保している土地の中で造ると30軒ぐらい造れるそうです。なので、あそこ1か所で30軒造ってしまうのか、それともあそこは20軒ぐらいにして、やはり泉田のほうにもう10軒ぐらい造るかとか、それは議会の皆さんと相談しながら、泉田のほうも、ちょうど斉藤工務店のさんの前の土地を非常に安く譲ってくれたのですけれども、相続のときに町に貢献したいということで斉藤さんから譲ってもらったのですけれども、そこもやり方によっては40軒ぐらい入ってしまう。ただ、下水道が入っていないので、ここは下水道を引くべきだろうなど。新しい人が入ってきたときに下水が入っていないというのはちょっと困るなというふうに思っているので、ここは議会の皆さんと相談しながら、あそこのおハナタウンまでは下水来ていますので、そこから引くのか、上小橋から引くのか、どっちがいいのか分からないですけれども、そういった

ことも検討しながら、今後もしっかり、今全国的に境町に住むといいよなんて言われているときに供給することによって、また引っ越してきていただけるというふうに思っておりますので、今後も引き続き推進をしてまいりたいというふうに思っています。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

染谷直人君。

○2番（染谷直人君） ありがとうございます。実は町内の方に枠を与えられないかみたいな話は、答弁を聞きながら質問というか要望しようかなと思っていたところでありますので、ぜひこれは、私のところにも結構声が来ているものですから実現できたらなというふうに思っておりますので、移住と定住も含めてぜひお願いしたいというところで質問を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

○議長（倉持 功君） これで染谷直人君の一般質問を終わります。